

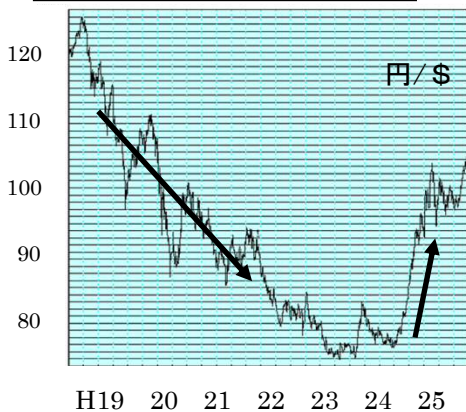
愛知県畜産総合センターだより

(平成26年1月)

平成25年は酪農にとってシビアな1年でした。アベノミクスによる為替円安は、輸出産業を中心に経済効果をもたらしているのですが、酪農業界にはその恩恵がなかなか届きません。円安は輸入品の価格を押し上げるため、飼料を輸入に依存する経営では、飼料費の膨張に経営を圧迫されることになります。畜産業界は多くが輸入飼料に依存しており、畜産全般が冷え込んでいるのかと思えば・・・、豚肉や牛肉・鶏肉・鶏卵などは、ひさびさの堅調相場が年末まで続き、むしろ経営に活力が蘇ったように感じます。国産100%を誇る牛乳には、輸入品の価格上昇による恩恵はありません。酪農においては、関係者の努力と理解で、秋口から飲用乳価の引き上げを果たしましたが、飼料費高騰分と相殺され、何かが残る状況ではありません。

酪農王国と言われた愛知ですが、農家戸数が400戸を切ったここ数年においても毎年十数戸が廃業し、生乳生産量も対前年割れが続く状況にあります。地域の酪農仲間が一定以下に減ってしまうと、従来の組織や体制の維持が難しくなることは、みなさん実感されていることと思います。生産基盤の回復、そのために誰が何をやるか・・・、もう1度、自身の経営の足元を見つめ直す時期なのかも知れません。

為替相場の動き (H19-H25)

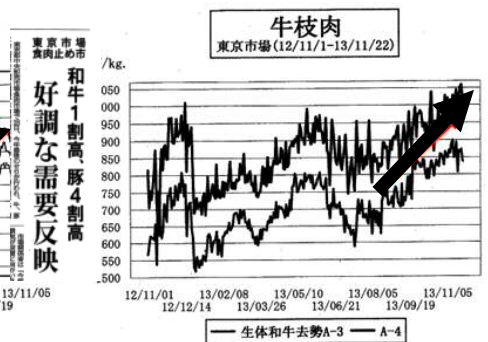
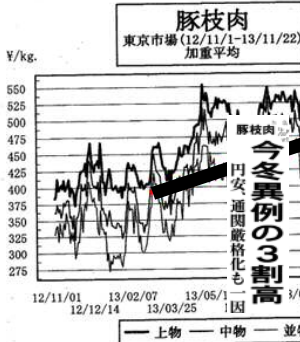
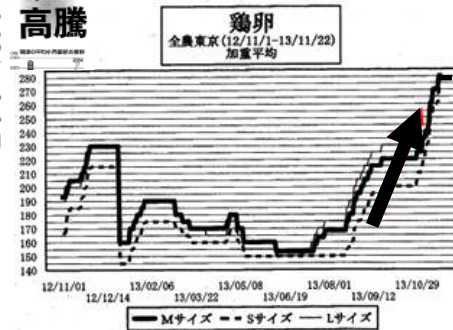


例えば、為替相場の動き一つとっても・・・

○しばらく続いた円高の流れが、ここ1年で急激に円安を加速させています。円の価値が低くなり、ここ2年間の動きのように、75円/\$が105円/\$になれば、流通マージン等も輸入燃料に左右されるため、タイムラグはあるでしょうが、輸入価格は $105 \div 75 = 1.4$ 倍に収束していきます。円安になれば輸入飼料の価格も上がるので、それなりの覚悟が必要です。穀物相場を混乱させる投機マネーの動きや、畜産新興国との買付競争等の影響も心配です。飼料生産基盤の脆弱な酪農地域だからこそ、各経営において、飼料費の高騰に備え、どのような選択をしていくかが重要になると思います。

ここ1年の畜産物価格(鶏卵・豚枝肉・牛枝肉)の推移

鶏卵 高騰 卵の値段 上昇中



畜産総合センター ～直近ニュース～

- ★自給飼料を増産、過去最高1,141個のラッピングサイレージ生産(前年比126%)。
- ★H25乳質コンクール評点で320点(324満点)獲得。県内3位相当(昨年1位)。
- ★第12回中部日本ホルスタイン共進会第1部で活躍した(優等賞2席)アイチラバ ウインドブルック ブルージェムETの未經産採卵に成功。12卵採取。現在2頭受胎確認。

○センター酪農課が取り組む主な事業

- (1) 輸入受精卵による雌牛側からの改良を継続し、北米高能力牛の血統を持つ優良牛を譲渡(抽選)したり、検定牛として提供いただいた乳牛に、優良牛の受精卵を移植します。
※センター高能力牛血統はHPで「種牛A」リストを確認ください。
- (2) 牛群検定参加農家の情報分析等に協力します。
- (3) ニーズに応じ、酪農に関する人材育成を行います。
- (4) 自給飼料生産・飼養管理・ふん尿処理等のよろず相談に対応します。
※段戸山牧場(公共育成)や人工妊娠課(ET)の事業窓口もご活用ください。